令和５年度第７回　感染症発生動向調査部会

令和５年１０月１８日

月番：澤田　明（感染症全般）、石山 俊次（STI）

１　前月の感染症発生動向について（2023 年第 36 週～39 週・9 月）

＜全数把握対象疾患＞

（感染症全般）

- 一類感染症の報告はなかった。
- 二類感染症では結核が 18 例あり、毎週コンスタントに報告された（前年比：84.6%，2019 年比：59.2%）。高齢者および若年層の 2 峰性分布を認めた。
- 三類感染症では腸管出血性大腸菌感染症が 8 例（O157：5 例，その他：3 例）報告された（前年比：63.9%，2019 年比：24.2%）
- 四類感染症の報告はデング熱 1 例、マラリア 1 例、レジオネラ症 3 例(前年比：118.4%，2019 年比：95.7%)であった。
- 五類感染症
  - ✓ カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 2 例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1 例、播種性クリプトコッカス症 1 例、破傷風 1 例などの報告があった。

（STI）

- ✓ 後天性免疫不全症候群は、30 代 AIDS の男性 1 例が報告された。本年累計は 12 例となり、前年同期累計（4 例）を大きく上回っている。
- ✓ 梅毒 は、 男性 1 例（20 代）と女性 3 例（20 代 1 例、30 代 2 例）計 4 例（全て早期顕症）が報告された。本年累計は 98 例となり、前年同期累計（90 例）を上回るペースで増加している。全国における本年累計は 11,260 例となっているが、すでに 9 月 3 日の時点で 1 万人を超えており、昨年同時期と比べ 1.24 倍となっている。

＜定点把握対象疾患＞

（感染症全般）

- 前月と比較し増加傾向にある疾患
  - ✓ インフルエンザ（前月比：329.0%，2019 年比：1375.7%)---ただし全国と比較し少なめ　この時期としては例年より多い
  - ✓ 咽頭結膜熱（前月比：158.3%，2019 年比：144.3%）
- 前月と比較し減少傾向にある疾患
  - ✓ 新型コロナウイルス感染症（前月比：75.6%）
  - ✓ RS ウイルス感染症（前月比：37.0%，2019 年比：9.9%）
  - ✓ ヘルパンギーナ（前月比：35.5%，2019 年比：64.5%）

（STI）

- ✓ 4 疾患とも特に大きな変化は見られなかったが、女性の尖圭コンジローマ 5 例の報告が全て東濃地方であった。

２　検討すべき課題

- インフルエンザ流行について

３　情報提供（月番委員専門分野から）

2018～2020 年度の「三鴨班」4 県全数調査と国の発生動向調査（NESID）のデータと合わせて、NESID の梅毒に関する感度は 20%程度。80%は未報告と推定される。サブ解析によると、特に診療所・クリニックからの報告が過小評価されていることも明らかになった。

―　性感染症に関する特定感染症予防指針に基づく対策の推進に関する研究（通称：三鴨班）

４　その他（感染症対策推進課から）

- 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則の一部を改正する省令の施行について（施行通知）
- 感染症法第 12 条第 1 項及び第 14 条第 2 項に基づく届出の基準等について（一部改正）
- 感染症発生動向調査事業実施要綱の一部改正について
- 岐阜県感染症発生動向調査事業実施要領の一部改正について
- 野鳥における高病原性鳥インフルエンザウイルス（H5 亜型）の検出について
- 今シーズンのインフルエンザ総合対策の推進について

＜検討結果＞